



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	まえがき
Citation	北海道大学総合博物館研究報告, 4
Issue Date	2008-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/34687
Type	editorial
File Information	maegaki.pdf



まえがき

907年、唐は滅び中国は混乱状態に陥った。当時、唐は東アジア世界の中心、と言うよりむしろユーラシアを二分する勢力であったので、この混乱は中国にとどまることなく、世界秩序をゆるがし解体することになった。北方狩猟漁撈民や遊牧民も少なからずこの影響を受け、なかでもモンゴル民族の自立・隆盛・建国への活動はめざましく、13世紀に新たな世界秩序を打ち立てることになった。このような激動する国際環境の中で日本列島では荘園の増大、地方特産品の広域流通化など中世社会への移行が進んでいった。

一方、日本列島における二大民族構成の一つアイヌ民族に関しては、その集団の起源・系統・近縁関係、文化の形成過程すべてが未解明な状態にある。そこで東アジア的な歴史的枠組み、すなわち列島北部―サハリン―アムール下流域における中世社会・民族形成の過程のなかに、古代[オホーツク文化・擦文文化]から中世[アイヌ文化]への展開を位置付けること（そのプロセスの把握と動因の解明）を中心的な目的とした学際的共同研究を下記科学研究費の補助を得て企画・実施した。

平成15年度～平成18年度「文部科学省科学研究費補助金特定領域研究(2)（領域代表 中央大学 / 前川要）「中世考古学の総合的研究―学融合を目指した新領域創生―」新領域創生部門A―01「中世日本列島北部―サハリンにおける民族の形成過程の解明―市場経済圏拡大の観点から―」（課題番号：15068201）（研究代表者 北海道大学 / 天野哲也）

平成19年度文部科学省科学研究費補助金（特別研究促進費）「中世日本列島北部―サハリンにおける民族の形成過程の解明―市場経済圏拡大の観点から―」（課題番号：19900101）（研究代表者 北海道大学 / 天野哲也）

この研究から生まれたさまざまな成果に関しては、すでに3回のシンポジウムや講演会、個別論文発表、書籍刊行などによって公開してきた。最終年度の成果報告となる本研究報告ではアイヌ文化の深層を掘り起こすことを目指した。そこで、時間的・空間的に、また学問分野についてもより視野を拡げて、今後の研究の進展に寄与する基礎的な枠組みの構築や資料の集成を目的とする編集方針をたて、力作を得た。第2部に収録した『シベリアにおける古代及び現代のクマ儀礼』も、北ユーラシアにおける旧石器時代以降の人類とクマの関わり（アイヌ文化の深層につながる）について多面的（生態的、社会・経済的、信仰・神話的）に取り組んだ労作である。これの日本における刊行の意義を理解して、翻訳・掲載を許可下さったロシア科学アカデミー会員、考古学・民族学研究所（ノヴォシビルスク市）所長、A. P. Drevyanko 博士に厚く御礼を申し上げたい。

平成20年3月31日

北海道大学総合博物館
天野哲也